

(3) 中期学校経営方針【日枝プラン】

学校概要					
創立105年	校長 大内 美智子	副校長 益子 照正	学級数 24	児童数 674人	共進中ブロック

学校教育目標	
「生き生き日枝っ子」	

- ・「知」自ら取り組み、学び続ける子どもを育てます。
- ・「徳」学校が好き、自分が好き、友達も好きと思える子どもを育てます。
- ・「体」自ら健康で安全な生活を送ろうとする子どもを育てます。
- ・「公」自分たちのまちを知り、好きになり、共に創っていかうとする子どもを育てます
- ・「開」様々なものの見方や考え方、感じ方のできる子どもを育てます。

学校経営中期目標

◎総合活動と児童指導を核とした魅力ある学校づくり ○教科等との関連を図った総合活動を核とする「授業づくり」 ○児童支援専任を中心とした児童指導のための「組織づくり」 ○専門性の向上を目指した「自分づくり」	
学校経営 中期目標 設定理由	<ul style="list-style-type: none"> ・「学校生活を意欲的に過ごす子ども」の実現を目指し、児童指導の一層の充実を図る。 ・日々の魅力ある授業が子どもの成長促進的な指導・援助になると捉え、「授業づくり」を中心に位置づける。 ・子どもの思いや願いを捉え、教科等との関連を図った総合活動をつくり、子どもの生活に密着した教育課程を編成する。 ・教科や教科等の内容や総合活動を通して、確かな学力を身に付けたり活用したり、豊かな心と健やかな体を育んだりして、子ども自らが実生活・実社会において駆使する「生きる力」を育む。

小中一貫教育推進ブロック目標

共通目標	
<p style="text-align: center;">まちに生きる子どもを育てます</p> <p style="text-align: center;">○自尊感情 ○学ぶ意欲 ○コミュニケーション能力 ○規範意識</p>	
自校の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・ブロック内の小学校で音楽交流会や球技大会などを通して、意欲的に学んだり、自分のよさを感じたりしながら、生き生きと過ごすことができる子どもを育てる。 ・部活動見学や授業参観などの取組に参加したり、中学校教諭から学んだりすることを通して、人と積極的にかかわることができる子どもを育てる。 ・「まちに生きる子ども」として、学習や生活の場面を通して、ルールやマナーを守る意義を知り、共通の価値観をもってすごそうとする態度を養う。

共通取組内容

1 確かな学力	2 豊かな心	3 健やかな体
<ul style="list-style-type: none"> ・授業力・指導力向上に向けた研究・研修を充実させ、「分かる授業」「魅力ある授業」を展開する。 ・一人ひとりの児童のニーズや実態に合った、分かりやすい授業を行う。 ・学校と家庭との連携により、家庭学習の習慣化を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分らしさを発揮しながら学校生活を前向きに過ごし、自己肯定感や自己有用感を味わえるようにする。 ・友達とかかわるなかで思いを共有して、互いに認め合い、励まし合って豊かな学校生活をすごそうとする心情や態度を育てる。 ・活動の中で、様々な生き方や価値観にふれて、多様な考え方ができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・心身ともに健やかな成長をめざし、自ら健康で安全な生活を送ることができるようにする ・自分の目標に向かって根気強く挑戦するとともに、友だちと一緒に運動することの楽しさを味わえるようにする。 ・体をつくる食べ物の大切さや働きについて理解し、自ら健康で安全な生活を送ることができるようにする。

重点取組分野

4 教育課程・学習指導	5 児童指導	6 特別支援教育	7 保健・安全管理
<ul style="list-style-type: none"> ・総合活動を核とした授業の充実を図る。 ・「授業力」と「教師力」の向上をめざして公開授業を行い、外部講師や他校の方からの評価を仰ぐ。 ・子どもが意欲的に学校生活を過ごすための教育課程を求め、活動や単元の見直しをもち、総合活動と各教科等との意図的・計画的な関連を図る。 ・一単位時間、単元の授業計画を立てて授業を行い、日々の指導について評価をして、授業改善を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・月1回「児童支援コーディネート会議」を開き児童指導上の課題を協議するとともに、毎月の職員会議で児童についての共通理解・情報の共有化を図り、全教職員で組織的な児童指導を行う。 ・児童支援専任を中心に全教職員で組織的な児童指導を行う。 ・年3回の各担任による個人面談を行うとともに、相談窓口のを拡大を図り(養護教諭・スクールカウンセラー・児童支援専任による相談)保護者と児童が相談しやすい体制をつくる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援コーディネーターを複数指名し、月1回校内委員会を開催するとともに、校内研修会を実施、重点研授業研究でソーシャルワーカーから指導をいただくなど、特別支援教育推進のため校内支援体制を開係機関と連携しながら整備する。 ・自校の特別支援教育上の課題を明らかにし、保護者と十分連携を図りながら一人ひとりの実態に応じた個別の教育支援計画を作成し、それにもとづいて適切な指導・支援をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校保健指導計画・食教育の全体計画をたて「健康・安全で幸福な生活を営むことのできる態度・能力の育成」に取り組み。 ・月1回「保健だより」「食育だより」を発行し保護者への情報提供を行うとともに、学校医や福祉保健センターと連携をしながら子どもの健全育成に取り組む。 ・安全管理計画を毎年作成し、集団下校訓練と引き取り訓練を年1回実施するとともに、地震や津波、火災に備えての避難訓練、防犯訓練、交通安全指導、不審者対応訓練等を計画的に行い、不測の事態に適切で迅速な対応ができるよう努める。

8 人材育成・組織運営

- ・日々の教育活動を振り返り、実践的な力量を高めるために、「子ども・保護者・同僚」の声に謙虚に耳を傾けていく。
- ・学校教育目標「生き生き日枝っ子」の実現をめざして、学年や低・中・高学年ブロック、各委員会等において、全教職員が協働しながら前向きに教育活動に取り組む。
- ・学校全体で授業力向上を目指し、年間7回の授業研究会・4回の研修会を計画し、多くのアドバイザー・スタッフから指導を仰ぐとともに、自らが日常的な授業改善に取り組む。
- ・教職員が互いに研鑽し、力量を高めることができるように、初任研や2・3年次研を充実させるとともに、重点研究・学年研究会を計画的・組織的に行う。